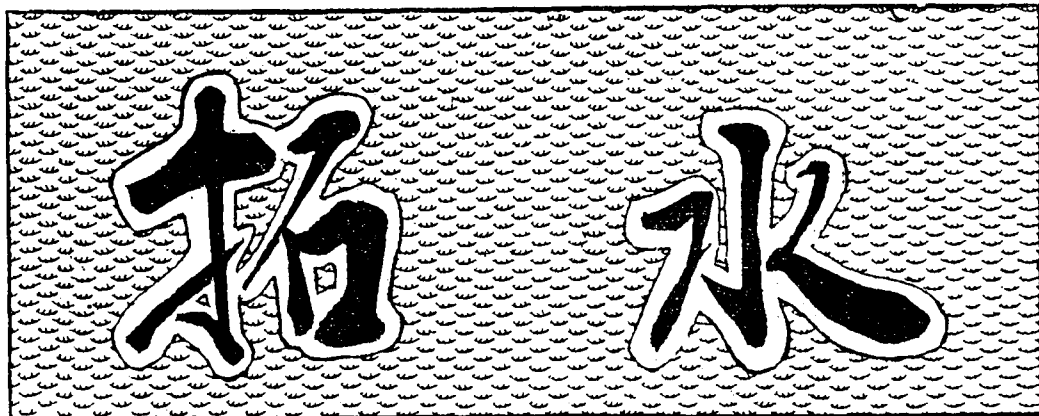


第十五号昭和卅二年十一月十五日発行  
毎月十五日一回発行 一部 十円  
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可



十一月



(第二回兵庫県漁業協同組合大会の写真)

兵庫県漁業協同組合連合会

# 婦人部と漁業協同組合

全漁連 野中 六郎

沿岸漁村に何時頃から婦人部運動が出来たかと申しますと、明治四十二年に出来て居ります。

岡山県水産会々報第十八号によりますと、茨城県白磯町に小池はな(当時五十二才)の文盲の婦人が居られ、家庭の仕事を中心として行つて居られた。此の事に村人が感激して矯風会と云う物を作り、次いで矯風貯蓄会を結成し、白磯町字前渡しの一村三百戸全員が加入しました。

此れを見た青年部も刺戟され青年会を作り、隣り村でも矯風会を作つた。当時の貯蓄の単位は一銭二銭でしたが、前渡し村に船だまりを作る時、国県の補助もありましたが、当時の金で二千円を矯風会で寄附しています。此れが文献に現われた最初の婦人部運動の概要であります。その後はどうかと申しますと大正十三年の福井県水産会報の十二月号に兵庫県における漁業組合大会の記録として(大正十三年十一月二十七日に

神戸で行れた)兵庫県漁業組合大会決議として

一、家族会を設立し、家族生活、趣味の向上を計る事

二、時間励行の事

三、貯金、保険を励行の事

四、副業の奨励を行う事、これが実行を計る事

五、右の実行を計るために、実行会を設立する事

を決議してあります。

家族会と申しますのは、婦人部の仕事を中心である事は申すまでもありません。大正十三年頃に此のような決議をされた兵庫県の漁村の方々は先進的であつたと思ひます。

昭和の初めに、全国的に不況に陥入、負債の整理を計つた事がありますが当時農漁村では月二〜三割の借金を取られていました。婦人部運動が基となつて経済更生の必要のある所では婦人部の方々が大いに活躍されております。

例へば京都府の宮津では経済更生委員、三十六人中六人も女の方が参加され、経済更生の活動に貢献された力に顕著な物がありました。経済更生運動で立派な成績をあげられた所には必ずと云つてもよい程、女の方が参加されておられました。

戦争中は愛国婦人会等に総合されまして漁村独自の立場の物はなくなりましたが、戦後福岡県では女の組合長の方も出られ立派な組合にされましたし(現在福岡県婦人部連合会長、津屋崎漁協理事)農協方面にも女の監事の方もおられます。このような例もありますので、女の方が漁協組の組織にもつともつと入つていつてほしいと考へます。

では戦後の状況を申しますと、これは全く民主的に自発的に出来ました。一番初めは北海道であります。御承知の如く北海道は離島が多く離島で生れて、死んで行く方も多いので、電車も自動車も見ることのない老人を都会へ連れて行つてあげよう云う旅行貯金が婦人部運動の始まりであります。全漁連で正式に取り上げましたのは、昭和二十五年からであります。漁村婦人部の全国的な状況を申し上げますと

二十九三年三月末 二三八組合

三十一一年三月末 三万九千人  
四百七十組合  
九万四千人  
三十二年三月末 六百二十五組合  
十一万七千人

となつております。

一方農協婦人部の方は、

三十一年三月末と三十二年三月末とは約十三万人減となつています。全国の漁協婦人部運動はなかなか活潑でありもつともつと盛んになる事と喜んでおります。

漁協婦人部の仕事は何にかと簡単に申しますと、

- ① 収入を増す事
- ② 冗費を失す事
- ③ 漁業の安定を計る為力に力を合せる事

④ 漁協組の本来の仕事が組合がまじめに行つてもらふようにする事

であると思ひます。組合と婦人部とは一つの組合内部の仕事であつて別な物では、無い事をしつかりと知つていただきたいと思います。

収入を増やす道は内職をするとか水産加工を行うとか色々ありますが、北海道では連合会の世話で閑漁期にブタを飼育するとか、果樹を植えるとか行つており、東京では有禽

漁業（アヒル等の水鳥を飼育する事）を行つて収入を増している例があります。婦人部の仕事を段階的に分けると、第一期は貯金、日用品の取扱ひ、第二期は新生活運動（料理の講習会、家族計画、家計簿の記入等）第三期は連合会的な組織を作らる。に分けられと思ひます。

今、全国で十四の婦人部連合会があります。連合会的な組織の必要性は

① 県内の婦人部の横の連絡が便利になる。

② 他府県婦人部との連絡が密になる

③ 色々な事業が出来る（日用品の全県下共同購入、講師の斡旋等）

個々の組織が成熟しましたら名称や事務所は何処でも良いから連合的な組織を持つのが本当の段階だと思ひます。

婦人部運動で一才交つた仕事を行つております所を一・二御紹介致しますと、

静岡県のある漁協婦人部では、全員が家計簿を記入しています。家計簿の記入を行つておられる所も他に、ある事はありませんが、全員がもれなく記入している所に特徴があります。

す。

愛媛県の某漁協婦人部では補育園を経営して漁村の困つて居る家より順次入園させるようにし、園費も月二十円で有資格の保田三人を置き、建物に組合が改造を行ひ年間五〜六万円の赤字については婦人部の利益と組合よりの補助金とで補つていきます。

組合と婦人部との関係と申しますお話の前に地域婦人部との共合と云う問題に一寸、ふれたいと思ひます。此の問題は山口県の婦人部大会でも取り上げられておりましたし、その他よく聞かれる問題ですが、私は何時も他の一般の婦人部運動に包含されたら漁協婦人部独特の発言とか運動は伸びないので、たとへ目的等が重複していても漁村で独自の婦人部を作る事によつて本当に漁村の声と云う物が出ると、はつきりと申し上げています。

では本題に戻りますが山口県の婦人部大会に婦人部と云うものが大きくなると組合が邪魔をするような点がある。婦人部自身にも反省する点もあり、愛される婦人部にならなくてはいけないと云う発言がありました。愛される婦人部である事は同時に、漁協組の組合運動の一環であ

ります。女の方は組合員ではないかもしれませんが、男女の別なく皆一致協力して組合運動を進めなくてはなりません。例へば兵庫県の場合三十七の婦人部があり、皆貯蓄事業を行つていますが、その中で信用事業を行つて居る組合は十八組合で他の組合の婦人部では直接信漁連に預けているような状況です。此の状況は組合運動の一環ではなく、組合が信用事業をやり受け入れるのが本當の状況です。婦人部運動によつて組合を本來の目的に、もどさなければなりません。

組合の役員会、総代会等にも婦人の人を多いに参加させるべきです。例へばある組合で婦人の方が出席されておつて、主人が払つたと思つていた商品代が未払になつており、組合が売掛金の未收分で困つて居る事がよく分つたと云う例もありますので、漁家としての立場より組合の経営までも立入る事が望ましいと思ひます。

又婦人部の名で店を一戸かまえて日用品等の販売を行つて居る処もありますが、此れは間違です。店をかまえるような事は組合が行うべき事であつて、此のような事が起りますのは先程申しました婦人部の運動は

あくまで組合運動の一部であると云う事を忘れて居るからです。組合の仕事、婦人部の仕事両々相待つてこそ立派な仕事が出来るのです。

婦人部の仕事は組合の業務を正常化すると同時に漁業の安定を計る事にあります。現在のような状況では子供に漁業をさせたがらない方も多いようですが當然の事ですので先づ此のような不安定な点を無くするようには婦人部の方が組合に大いに協力していただきたいと思います。

本年四月に、コーリン・クラークと云う英国の大学の先生が来られ「日本は戦争でさんざん打ちのめされたのにどうして早く経済が復興したか不思議に思つて居たが、日本に來て始めて分つた。それは①自然が非常に美しい。②その美しい自然を日本人は非常に愛している」と云つておられますが、我々が注意しなければならぬ事は、最も自然に関係のある漁業者、農業者が終戦後の工業等の経済の発展の犠牲になつて居る事です。

婦人部の力を基として漁村の力を政治的にも強く反映する事が、婦人部の窮極の目的であり、此れが婦人部と漁業協同組合との関係の結論になると思ひます。

# 一日毎日十円貯金

佐野漁協婦人部 婦

最初に私達婦人部の毎日十円貯金の誕生について申し上げますと丁度二年前の昭和三十年六月に果水産課のモデル地区の指定を受けましたのを動機として、一三三名の部員を以て、佐野漁協婦人部を結成致しました。

主たる事業を「貯蓄」に置き協議の結果三ヶ年の「据置定期貯金」と決定し六月一日より実施致しました。

然し婦人部が貯蓄運動を起す以前既に組合員の方々によつて月掛け貯金が行はれていましたのですが、この方法は信漁連より配布して戴いた紙製の貯金箱も利用される方や、支払日に組合で天引貯金をなされる方や、月末に通帳と共に三百円組合へ持つて来られる方や各人夫々都合の良い方々で貯蓄されて来ました。

従つて最初の頃は順調でしたが次第に一人二人と遅れ勝ちな方も出来特に冬枯れの頃には中合せた様に遅れ、月三百円の貯金にどうしても苦痛を感じ、最初の加入者が途中で落伍し永続出来なかつた状態でした。此の頃に於ては貯蓄に対する私達

漁村婦人の心構も現在程徹底されて居らず、組合も本格的に組織的な活動が行はれていなかつた事がこの様な結果を招いた原因にもあげられます。そこで婦人部結成準備集会の際「一人毎日十円貯金」について決議致しました。

漁村に於ける貯蓄運動の増強は何と言つても「家計出納の任に當つて居る婦人の一人一人が貯蓄への認識をたかめ、その実践に務めることが一番確實であり近道である」と組合長が常々強調されて来られた事を今一度思ひ浮べ互に「一人毎日十円貯金」を実施する様呼掛け、更に継続して行く為の方法についても協議致しました。

- 1 隣組毎にグループをつくり輪番制で毎日十円を集め組合へ持つて行く。
  - 2 貯金函を利用し月末に一括して組合へ預金する。
  - 3 支払日毎に組合で天引貯金をする。
- 等夫々意見も御座いましたが一長一短あつて協議がまとまらなかつたの

で組合長に相談致しましたところ、婦人部のこうした動きを良く理解下され、貯蓄事業を組合の運動として取上げられ婦人部自身自立で実行出来る様になる迄集金は組合が責任を持つから部員全員一日十円貯金を一生懸命続ける様励まして下され現在迄続けられて参りました。

結成以来毎月行はれて居る役員会でも十円貯金の進行状態や意見が見当されて来ました。発足当時の緊張した気持も年を越して二年を迎える頃には毎日続く「シケ」の為出漁日数が極減し従つて掛け遅れの傾向が表れて参りました発足以来初めて行き当つた難関でした。「年末、正月冬枯」漁村を通じ一番家計の苦しい時期です而し此処で坐折しては折角今迄続けて来た貯蓄事業も水泡に期すると同時に今後の事業も総べて暗礁に乗り上げてしまふので協議の結果打開策として組合の斡旋により日用品雑貨並に沖で使用する藻繩等の共同購入を行ひ単独購入により通常必要とする購入資金の節減を図り各自により生じた剰余金を以て貯金に当て中間目標を六月の第一回婦人部総会に置き冬枯れを乗り切る事が出来ました。

佐野漁村青少年クラブ員(五十五

名)も婦人部のこうした、たゆまぬ努力とその貯蓄実績に刺戟され二月一日より「十円貯金」を実施致しました。やがて一三三名の十円貯金の結晶は一年後の総会には六十万円の實踐を残し部員一人一人に堅いつながりと自信を与へて呉れました。

生存競争のはげしい世の中で共通の利害の中に働いている漁村に住む私達婦人の一人一人が個々の力では何如ともしようのない事業でも「私達の協同組合」の真剣な指導と協力により十円貯金を実施してから互に無気力な考え方から少しづつでも明るい考え方に切替えられ貯蓄活動にとまらず自分自身で伸びようとする意志、向上しようといふ努力が培われたことは目標額突破以上の收穫でありました。更に今年に入つて三十余名の船持の方が婦人部、青少年クラブの一日十円貯金と歩調を合せ「新造船建設積立定期貯金」として一人毎日五十円貯金を始められました。

今仮に私達が住んでいる津名町で(四、七〇〇世帯)一日十円貯金を一年間続けたならば一千七百十五万五千円の貯蓄が出来淡路全体(四五、五六五世帯)が之を実施したならば一億六千六百三十万円となり更に

兵庫県全体（八十一万九千七百十世帯）に於ては何と二十九億九千二百万円の多額を示し日本全国（一千六百五十八万世帯）の一世帯一日十円貯金の一年間を計算すると驚くなれば六百五億一千七百万円と言う想像もつかない莫大な貯蓄が出来る訳です。（只今申上げました世帯数は「兵庫県文書統計課昭和三十三年八月一日現在」兵庫県市町村別推計人口から調べたものです）

今二十億か二十五億の赤字が出来たと言うので偉い知事さんや副知事さんが、再建整備団体に指定を受けて中央政府、自治庁あたりには相当

# 購買事業について

林崎漁協婦人部

本日兵庫県漁業同組合連合会主催のもとに、第二回婦人部大会が、開催されました。林崎漁協婦人部の購買事業について発表せよとの事で御座います。

県の部長様を初めとして関係の方々県下各組合幹部の皆様の前で、発表する程の婦人部では御座居ませんが、購買事業につきまして、少しばかり体験致しました事に、ついて発

苦慮をほらわられて居られることはまぎれもない事実であると承つて居りますが兵庫県下八十一万九千七百十世帯が一日十円貯金を実施するならば約三十億の貯金が出来ます。

全県的に十円貯金をする事は容易でないと言う御意見もあると思ひますが私達の様な零細な沿岸漁民でも団結すれば出来るのですから出来得ないとすることは無いと思ひます。私達は女の力を結集して漁村はもとより全県的にこの運動を及ぼしたいと念願致して居ります。今後共今一層の御指導御鞭撻を御願ひ致し私の報告を終ります。

表させて、頂きます。

まづ第一に、土地の状況から婦人の労働につきまして、林崎漁業協同組合は明石市内を縦貫してあります明石川の西方より藤江に至ります。四キロに渡る一帯の海岸線に最近略々完成に近づいております。林崎漁港を中心としまして、四百七十五名の組合員が漁船三百三十余隻をもちまして昨年度は九十方貫を水揚しま

した。明石市水産物の四十五%を占めております。当漁協内の婦人はその九割が水産物加工に従事しておりまして、即ち八月中旬より翌年六月下旬まで春はいかなど、秋はいわし、その間はさんまの加工に一日五時間から十六・七時間、平均しまして、八時間働いて漁家の生活を支えております。一時間の賃金はいわしで三十円、さんまで二十五円であり

ます。皆様近時内海漁業の不振が叫ばれ、漁業経済が非常に苦しくなつてきました時収入の増加は急に望む事は出来ないのでは出費を出来るだけ少なくすることが肝要となつて参りました。その為にどうしても、婦人の漁業協同組合利用となりまして県の御指導のもとに、先輩の各組合婦人部も同様に昨年六月二十七日、四百三名の会員によりまして発足致しましたので御座います。

趣旨と致しますところは、  
1. 漁業婦人の生活向上  
2. 貯蓄の奨励  
3. 日用品の一括共同購入  
と切実なものでありますので一名の落伍もなく今日まで継続して参りました。  
現在の購買状況等につきまして申

上げます。一日十円貯金は本年九月末現在で積立総額二百二十万に達しました。この貯金こそ、本当の貯金であると確信しております。

購売品の取扱品目五十種類金額にして一ヶ年の累計は百万円に達しました。これは婦人部で販売したもののだけではありません。日用品の一括購入の利用は勿論であります。種々の会合、行事などを利用して市内の商店、内海漁連等の御協力を得まして林崎まで出張してもらつて売出して頂きました。

① 町の店を買いに行くより出張売出しを  
求めるもの 八〇%  
どちらでもよい 二〇%

② 出張売出しは良かった 八〇%  
いや 五%  
どちらでもよい 一五%

③ 出張売出しの品をみるし  
安かつた 五〇%  
かわらなかつた 三〇%  
たかかつた 二〇%

④ 利益金使い通について  
年一回のレクリエーションに  
六〇%  
基礎が出来るまで積立一〇%

婦人部に有効に 三〇%

以上のような状態で御座いました。

今迄に二回全員共に市バスにより

まして、先づ第一回目はこの水産会

館と神戸新聞社を見学し、有馬温泉

で休み、帰りはマヤさんより夜景を

見て帰りました。

又二回目には大和路へ一日を楽し

く過して皆さんに大へん喜んで頂き

ました。

次に現在購入の七〇%が地方商人

納入であります。始めは内海漁連の

品を全部扱っておりましたが、其の

後、地方商人が売込みに参りました

ので、比較検討の結果内海漁連扱い

は

石けん類におきましては

五〇〜十%たかく

ゴム製品におきましては

十%〜二十%

その他日用品におきましても

十%

たかくつきます。

以上のような数字が出ております。

今後の購売についての考へ方とし

まして

一、出来るだけ系統機関の連合会を

利用したいが、それだけ出来ぬ現

状に連合会は御留意して購入に当

つて頂きたいと考へます。

二、資金力の倍養、一にも積立の奨

励であります。連合会の高い原因

は連合会資金不足のための掛買いに

あろうと思はれます。資金不足の

ため地方商人の様な勉強が出来な

いのではないでしようか。閑のな

い勤労婦人に適当時に月一回の部

会継続励行、そして組合幹部の方

々と色々経営について懇談を希望

します。

又蔭の協力者女子職員の方を連合

会に於いて表彰の道を開いて頂き

いと存じます。私達婦人部の購売

事業についても皆様の前で発表の出

来得るまでになりましたのは、組合

幹部の御理解と女子職員の方々の一

方ならぬ御力添へに依るものと婦人

部員はいつも感謝しておる次第で御

座居ます。

今後共、県の方々漁連其の他関係

の方々の御指導と御援助を御願ひ申

上げます。充分意をつくせまんでし

たが、つたない私の発表を終らせて

頂きます。

一帯にありまして組合員八十余名婦

人部員五十余名の本当の小さな一漁

村で御座居ますが幸な事に、本当の

漁業者のみの集りでありまして外部

から何等影響、支配も受ない独立国

の様なもので御座居ます。それが故

に何事も、自分達の力と努力でやつ

て行かなければならない欠点もある

のですが、現在の処漁村全体が組合

を中心的一致団結致しまして、凡ゆ

る困難をも克服して、一意文化漁村

の建設に邁進致して居るので御座居

ます。斯様な環境の中に在る私達婦

人部は、環境衛生に力を注ぎ健康で

明るい漁村を造らねばならないこと

は申すまでも御座居ません。従つて

婦人部は次の様な事に努力致して参

りました。

第一は、毎日午前六時を清掃の時

間と決め漁村全体の同時清掃を実施

致して居ります。その理由は、公衆

衛生思想の普及を計ると同時に、各

家庭が個々に掃除を致しますと、風

の強い時は、風下が先に掃除をして

いない時は、総ての塵は、風下に吹

き飛ばされ折角奇麗に掃除した処が

何もならない結果となるから斯の様

な不合理を無くする為でも御座居ま

す。

第二に毎週火、金の二回を婦人部

総出で漁村周辺の海岸、船揚場等の

清掃日と定めて御座居ます。私達の

住んで居る所は、一漁村と云うのみ

ならず、觀光須磨海岸の一端であ

り、一般市民の憩いの場所として又

住み良い明るい漁村を造る為行つて

居るので御座居ますが、実行に移し

た当初は、部員総出と申しましても

名ばかりで欠席する人が多数あり、

実際は幹部と少数の有志の人達で行

つて居りましたが、日を経るに従い

### 漁村の環境衛生について

#### 東須磨漁協組婦人部

私達の婦人部は、文化生活の向上と新漁村の建設を計る為に、昭和二十九年五月結成以来、積立貯金、日用品の共同購入、台所の改善等漁家経済の安定化に全力を傾注致して参つたので御座居ますが本日は其の事業の中から特に私達が最も、重点的に行つて居ります

環境衛生の事について申し上げ、何か皆様の御参考になれば幸かと思ひます。

お話を申し上げる前に私達漁村の概要を簡単に申し上げたいと思ひます。

私達の漁村は、神戸市十三ヶ組の西中央部に位置する妙法寺川尻西岸



清掃後の気分の清々しさと環境衛生の必要を各自が身を以つて感じ今日では全員悦んで参加して下さる様になり私達も非常に心強く感じて居ります。特に私達が感謝致して居るとは、青年会の人々が進んで参加協力して下さる事や火、金以外の日でも海岸に塵が流れ着いた日等は、誰れからともなく清掃して下さる事で御座居ります。

第三に非常に狭い区域に漁家が密集している関係上、水道、便所、下水等共同で利用する事が非常に多いので、之等共同施設の管理は、婦人部で行ひその清潔を保持する為、手洗水の取替え消毒液の撒分等を適確に励行し環境衛生の完璧を期し漁村

### 内職について

#### 津居山港漁協婦人部

私達津居山港漁業協同組合婦人部は、この津居山部落がほとんど漁業でありますので、従来より結成されている婦人会が系統団体として活潑な働きをしているのに、これと競合つて別に婦人部を結成することは、害あつて益ないものと思ひ、協議の結果、津居山婦人部をそのまま漁協婦人部として発足しました。

特有の「蠅」「蚊」等を根絶し、伝染病の予防に努力致して居ります。

第四に私達の漁村に深い理解と同情を以つて常に献身的に協力と援助を願つて居ります須磨浦通二丁目の野村病院の厚意に依り各種伝染病の予防注射を漁村居住者全員に致して居ります特に、伝染病の発生しやすい夏期には、半強制的に全員の検便を行う等、私達の力で出来得る方法と手段を講じて環境衛生の万全と健康の増進に勉めて居ります。

現在では私達婦人部の努力と組合、青年会、特に野村病院の協力に依り清潔で明るい理想的漁村に一步前進致して居ります。

その後事業の進展と共に組合地区の瀬戸、小島、氣比、田結の四部落によびかけましたが、何分にもこの部落は漁業以外の生業者が多い為全員加入することはむづかしいので純然たる漁民婦人を以つて結成して、現在約四百名余りの会員があります。

私達漁協婦人部の主な事業は貯金

の徴収はもとより、日用生活品の斡旋、その他種々の事業を実施致しておりますが、今日は内職についてありのままを發表させていただきます。

昨年第一回県下漁協婦人部大会の席上に於て、漁協婦人部の内職は水産関係のある身近かなものがよいのではないかとのお話がありましたので、早速漁協へお願いして出荷用の魚箱の釘打ち及び巾着漁船の魚の選別、並びに陸揚げを実施して来ましたが、最初は金槌で指を打つやら、魚の選別に時間がかかり鮮度が悪くなるのが苦情を聞いたり、面白くないこともありましたが、今では順調に輪番制で実施致しております。又漁協では、魚の家庭加工を考えられ一戸に一箱でも二箱でも加工して共同出荷し、これを将来育成強化される方針が立てられましたので、婦人部に於ては、漁協と協議して全面的に物心両面の協力をお願いし、金串、及び魚干し用の「ス」の斡旋をしていただいで準備を整えました。なお、製品するまでの細かな研究と経験の公表をお願いし、よい製品が作られるように致しました。そして一戸あたり、一箱程度に止めて、第一回は試験的に組合より「ニギス」

を二十箱余り共同購入して各家庭へ配布し、塩干品の製作にかかりました。幸い「ニギス」が安価であつたことと、天候に恵まれ二日間で製品が出来共同出荷の明るい状態となりました。早速製作者名を入れて京阪神へ初めて共同出荷致しました。売価も割合よかつたので採算もとれ、今後、益々研究して多量生産致したいと思つております。

次に麦わら細工による指輪について申し上げます。この指輪は「ナフキンリング」やその他のことに使われ、主として外国向の製品です。これまで一部の人々が、二十年来、城崎町の斡旋業者より麦わらを購入し、製品にして業者の集荷時に各個人個人で斡旋業者へ渡し利益もほんの加工賃程度の収益しか無い状態でありました。その間色々取引き方法も何回となく変つたようですが、やはり中間斡旋業者と個人取引きをしておりました。一昨年来の漁業不振により、漁民の生活は内職を漁民全体に斡旋普及させ、漁村経済の健全しを因らねば危険な状態となりました。この時に当り、漁業協同組合に於ても、専務さん始め各理事の方が各地を視察され、色々内職を調べて来て下さいました。その中には

模造真珠等ありました。が新しい仕事を覚えるより、今までからしている妻やら細工の指輪を皆に普及させることにし、材料が安く手に入る方法なり、共同出荷することを組合へお願い致しました。組合では八方手配して下さり、現在、妻よらの共同購入をしていただくことになりました。売先きについても漁協に於て、直接貿易商社と交渉願ひ、試作品の送付により好評を得、第一回として二百グロス共同出荷致しました。中間斡旋業者の介在もなく、利益も当然良くなり、今後の発注量に大きな期待をかけております。

只今申し上げましたように内職についてはまだ日が浅いので、具体的はその結果を申し上げられませんが今更ながら団体の力の強さに感謝すると共に、今後とも漁協中心に漁協婦人部の事業進展に努め、漁村繁栄につくしたいと思っております。



## 内職として取上げた

### 水産加工について

浜坂漁協婦人部

私達婦人部が結成いたしましたから四年になりますが其間婦人部活動といたしまして貯蓄事業品物の共同仕入、生活改善運動、文化面の向上につきまして今もなほ活動を進めて居りますが私達が集会するたびに、いつも話題にのぼりそのたいさくすら見いだせず懸案となつて居りますのが副業問題であります。昨年の大会にも仮屋の方がこの問題につきまして意見発表をなさいましたが、私達の漁村浜坂に於きましても、沿岸漁業の不振と港湾の改修事業を行つて居る関係上生活は非常に苦しくなつて居ります。しかしながら漁村の明るさを見出そうと、そして港湾の完成するまではお互に苦しくてもがんばりませうと誓合つて居ります。副業と申しましても、漁業の得意性により継続的なものはむづかしく、緩漁期は出来ませんが、忙がしい時には出来ないやうな場合が多くてなかなか適当なものがありません。ある

者は日雇労働として働き、又鮮魚仲介人の人夫として使われ少量のお金を得て居りますが、これはある一部者で、どうしても何か婦人部で誰でも容易に出来、しかも高率なものはないやうかと色々相談していたのであります。ところがたまたま沖の島のウラゴウへ出漁していた漁業者の方達が帰つて来られウラゴウでも、以前は生活が苦しかつたが婦人の方達が色々相談されて、いわゆる加工と云う面に入れ今では立派に漁家経営の安定をはかつていると云うお話を聞いたのであります。私達も漁協組合の役員の方々から浜坂には巾着網があるのだから、いわゆる加工をやつて見ればと進められていたのであります。なかなかまとまらず、そのままになつていたわけです。婦人部の中には仲介人がやつているのだから、私達でも出来な

を聞き、よしそれでは一つやつてみようかと云う相談のもとに、漁協の専務さんなり役員の方々にも色々相談をし、又加工面についての指導を受けながら、いわしの目指加工に着手出来る運びとなつたわけでありました。それが昨年の暮だつたのであります。

私達がいわしの加工をしますのが、秋の小羽いわしのとれる時期であり、それまでに加工に使う資材をととのえねばなりません。そこで、冬の間に目指しに要する、クシとか箱を用意したのであります。いよいよ本年九月に入り目指しの出来る日がまいりました。

朝早くから皆が巾着船の入港するのを待ちかまえて、いわしの荷上を終るとそれ／＼仕事にかかり目指をするもの、それを洗う者、ほし場に運ぶもの、そしてそれを干す者、干し上つたいわしを荷造りする者、それぞれ手分をしてやつています。こうして出来上つた加工製品をトラツクに積んで始めて京阪神市場へ送り出した時の喜びは本当になんともいえな

い、ただただ嬉し涙で喜び合つたのであります。

私がこう申し上げますと、ただ簡単にいわし加工製品が出来上る様で



すが、雨降りが続きますといわしが  
かわかず、風が吹けば落ちて砂まみ  
れとなり、光沢はなくなり、夜中  
も何回となく起きて、干場に出て見  
る事も度々あります。此の様に出来  
上るまでの家庭に於ても色々苦勞  
があります。こうした一貫作業によ  
り、共同の力と、更に此の喜びの中  
から新しい生活を切り開く勇氣が生  
れるのだと云う自覚を新たにしたの  
であります。

加工に要する塩代であるとか、箱  
代、パーチ、運賃等の諸経費、並び  
に利益は其時の仕入と販売価額によ  
つて多少の変化はありますが、初  
年度の事でもあり事務的な事は組合  
の方にお願ひ致してあります。こう  
した加工作業によりまして次の様な  
事を体験致しました。

## 全国漁協婦人部 協議会に参加して

今回第一回の全国漁協婦人部協議

会に出席させていただきましたので  
こゝで見たままを、そして私のメモ  
して参りましたメモをたどり乍ら思  
ひ出すままにお話してみたいと思ひ

個人々々で出来ない事でも共同の  
力でやれば出来ること云う自信と漁村  
の副業は漁業に關係のあるものが一  
番適當であると云う事、又漁業は従  
来、大漁貧乏で魚が多くとれば安  
くなるが、こうして加工する事によ  
り漁家の維持が可能となり、一石二  
鳥の利点があります。なほ、副業收  
入により計画的性が保たれ、行きあた  
りばつたりの生活が少しでも改善で  
き貯蓄の増強がはかれます。

以上の様な利点があり、なほ今後  
も婦人部の事業として続けて行き加  
工に対する研究と努力を重ねて漁家  
経営の安定と明るい漁村を打ちたて  
たいと考えて居ります。  
簡単に御座居りますが、私の発表を  
終らせて頂きます。

江井漁協婦人部

ます。

九月四日、場所は東京半蔵門前東  
条会館に於きまして、午前十時より  
開会されました。半蔵門と申します  
のは、皇居の西北方かと思われま

す。丁度その半蔵門前に全国漁業協  
同組合連合会、つまり全漁連がある  
わけでございまして、その横に皇居  
に向つて並んで居りますのが、会場  
に当られた東条会館でございます。

会場の窓より眺められますのは、皇  
居の森、青々とした芝生の土手皇居  
をめぐらすお堀をして、そのお堀に  
は一つがいの佃が二十四万円もす  
ると云われます白鳥が、静かにおよ  
いで居りました。会議の模様は北は  
北海道、南は四国、九州からの二五  
都道府県幹部三九名、男女合せて代  
表七十余名を集め全漁連、水産庁、  
労働省、農林中金、等關係者が列席  
され、席順も北海道より順次設けれ  
れ、私達兵庫県は丁度中央にありま  
した。そして只今よりの司会者の  
御発言により、第一に全漁連片柳会  
長様、つづいて水産庁長官、農林中金  
の理事長様と、おえらい方々の御挨拶  
について労働省婦人少年局婦人課  
長高橋展子先生のアジア国際婦人会  
議に出席されての状況を御知らせ下  
さいました。アジア十五ヶ国の婦人  
代表が一室に会して、それぞれ違つ  
た面から語り合になり、日本の教育  
の進んでいるのに反し、インド等は  
百人の中一人位しか字のよめる人は  
居らないと取り残された国のなやみ

を訴へられたたのお話。それから日  
本は女の発言力が少い、外国殊にア  
ジヤの後進国の女の発言は多い、男  
子を打ちまかすと云ふ事がねらいで  
はなくて、男子と同等に何事もやつ  
てゆき、共に並んで責任を分担する  
んだと結ばれました。ついで、新生  
漁運動協議会事務局長川中先生の私  
達の最も身近な食生活の改善と精神  
面に於ける公衆道徳の高揚環境の整  
備指導者の養成等々女の協力がなけ  
れば、出来得ない事であるから、ど  
うか新生活運動に協力されたいと結  
ばれました。丁度お昼になり食事  
をいただき、食後一同記念撮影をし  
ていただき、午後は一時半より開か  
れ、又講演に移り農林省農業改良局  
生活改善課長山本松代先生のお話  
に這入りました。勿論生活改善につ  
いてのお話して、申し上げる迄もなく台所  
の改善、そして経済面を事こまかく  
お話し下さいまして三時過にやつと  
朝からの挨拶と講演は終つたのでご  
ざいます。そして私達待望の協議事  
項に移りました。協議事項と致しま  
しては、

一、協議会の運営について  
二、婦人部連合体の活動促進につ  
いて、(これは山口県と愛媛  
県が報告)

三、婦人部運動の推進について

以上を順次協議致しましたが、第一に山口県、婦人部の経過報告、次いで愛媛県の方から現在迄の婦人部の歩みを報告されました。この報告はどちらも兵庫県と同じ有り方であると感じましたが、只兵庫県よりも一歩おそく出来て、一歩前進しているの感がありました。次に議長選出、これは山口県の方が、全漁連から指名されました。この議事の総合的な要点は、漁協婦人部の連合体はおかない事、漁協婦人部の全国的な運用は全漁連が行ふ事、技術的な面から漁信連を通じて連絡を取る事、漁協婦人部からは負担金は取らず、全漁連がこれを持つ事、と大体の結論は以上の通りであり、猶、現在全国で行はれている漁協婦人部の運動方針と致しまして少しく申しのべて見たいと思ひます。

一、基本方針

二、実施事項

一、基本方針は漁村婦人は現在漁村が置かれてある社会的、経済的な地位を正しく理解し、漁村婦人全員相携へて自身の地位の向上を図り生活の合理化に務めると共に、漁業協同組合の健全なる発展に協力する

婦人部の組織の拡充強化について、  
1 漁協婦人部の内容充実を図ると共に、現在婦人部未結成の組合に対しては、婦人部の必要性をよく認識させ婦人部結成を促進させる。  
2 漁業協同組合意欲昂揚と組合事業の推進協力について、協同事業の基本的な考へ方及組合経営の事態をよく知ると共に、婦人の特質を生じ組合事業に参加協力する  
3 漁村新生活運動の推進について (イ)生活の計画化を図るため家計簿の普及を促進する (ロ)冠婚葬祭、集合、部落的行事の改善並に衣食住の合理化を進め冗費の節約を図る。又衛生保健思想の普及に努める。  
4 貯蓄の増強について (1)漁協の貯蓄運動に積極的に参加する  
②生活の計画を図る為に目的貯金をする  
③ 事業の斡旋については、会員の希望に応じ生活必需物資その他購買品の斡旋を行い消費生活の改善に努める。  
(教育情報活動)として以上のすべて参りました。各項の目的を達成する為に必要な講習会、或講演会又映画会等を開催し、又婦人活動に関する

情報の交換、参考資料の配布、又は先進地の視察を行う。以上が全国で行はれている一般の婦人部活動の運動方針であります。以上第一日の日程は終り、第二日は午前十時全漁連前出発の観光バスにて都内見物に御案内していただきましたが、先づ第一に御案内を受けましたのは、私達農漁村の一番の親銀行であります農林中央金庫に参り、(貯蓄部長吉川氏)より銀行内の模様を聞かせていただき大きな金庫や大勢の銀行員さんの御仕事振りを拝見しまして皇居前広場に車を入れ、二重橋を背影に記念撮影をし、国会議事堂前を経て靖国神社に詣で同胞の御冥福を心より祈り、明治神宮に明治大帝の御偉徳をたたへ、又泉岳寺に四十七義士の遺業をしのび泉岳寺でおひるをいただきました。お昼食をいただき乍ら誰からとなく自己紹介の話が出まして全員紹介を終りやつと二日目にしてみんな打とけ合つたのでございますが、丁度バスの出発時間となりましたので至方なく車上の人となりましたが、泉岳寺のつづきを車内に持込まして、もう一度今晩私達だけの会を持ちたい、本当に私達の心からの話しを語り合ひませう。と又々漁連の方にお願ひして、昨日は御

挨拶と講演に終始した一日を今日穴うめする気で皆さん意見が一致し、昨日の会場を再び設けていたゞいたのでありますが、話は後や先になりませんが、私達を乗せたバスは泉岳寺を出てそんな話をし乍ら順路は歌舞伎座へ、そして中村歌衛門の十六夜清心を一幕見せていただき、最後のコース浅草観音に、そして上野の西郷さんの像銅に、車内より黙禱をささげ、全漁連前にかへつて参りました。今夜は本当に私達漁村婦人部の話しに最初から移りまして、いろいろ話し合つたわけでございますが、私と致しまして一番に頭に残して参りましたお話しは、北海道の方の何とも申し上る事の出来ないお話しでした。その村は一日一回位しか御飯は喰べないそうです。一日二回迄はジャガ芋のおかゆたさうですが、やはり沖に出て昆布をとり、山に這入つては荒地を耕してジャガ芋をつくりますが、そうした本当の貧しい漁村のみなさんが、やはり私達と同じくが婦人部を作り、自分達のいろいろの面からの向上を計り専心貯蓄もしているとお話しになりました。私も私達漁村と比べてついほろりとさせられた次第であります。三度の食事をたとへ一ぺんでもおかゆを喰

つて居られる家があるでせうか。私は淡路の一部分漁家の内情位しか判りませんが自分のお家とよく比べてみて下さい。その三度の食事がおかげでも自分達の生活の向上を計る為には婦人部もつくり、十円貯金も全国の平均を上回る律でやつて居られますことを知り、私達が一日十円貯金を自分の為にするのに何の苦しみがあるだろうかとかんがへさせられました。三度の食事を一べんおかげにして喰べたと思へば、十円おろか二十円、三十円もいと安い事ではないでせうか。北海道のお話しばかりを申上しましたが、他の府県も私達兵庫県と余り大差はありません様に見受けられました。只九州宮崎県には女の組合長さんが居られるさうでございいますが、兵庫県には女がならなくとも立派な男の方々が沢山居られますが、まあそれ位の意気込で婦人部の一人一人が自分の為、家の為だと思つてやれば如何なる事も出来な事は無いと思えます。一日一円、一日十円、一日皆貯金或は天引、つもり月掛、日掛、定期と貯金の方に又種類は山程もございいますが、どの果でも役員の方々が奉仕してやつて居られます。信用事業、購売事業等みんな同様であり、会費の徴収を

している所はありませんでした。但し連合会の出来ているところは果からの助成金、又出来ていなくても、漁業協同組合或は町村からの助成金を受けて居られるそうです。この様に他府県共に之れと云つて變つたところはございませんでした。最後に私達は今度第二回の全国大会を約して 来年お合したときは成功談、失敗談或は苦心談等を話し合ひませうと云つてお別れした次第でございませう。四日は大会、五日は見物と東京ですごし、六日朝東京に別れをおしみつつ夕方大阪着でかへりました。皆様、前途猶遠い漁村の発展を私達婦人部の協力により一日も早く実現出来ます様にせめて農家の水準迄追付けたらもうしめたものです。良きにつけ、悪しきにつけ、兎も角も私達貧しい漁村の婦人の手で実行出来得る範囲内にとめようではありませぬが。光明は遠からず、我等の上に輝く事でございます。話の筋が後や先になりましたが、大体においてありのまゝを順を追つて申して見ました。おききぐるしい点多々ございましてせうが、最後までよろこそ御静聴下さいました。以上をもちまして私のつたない報告を終らせていただきます。

聞きある記

海苔人工採苗の巻

海苔を漉くうしろで旅の道を訊き

六 助

義士と景勝の地、赤穂市は、また兵庫県における海苔の生産地でもある。海岸に点在する松の緑、いりこんだ岩礁のむこうから、深まり行く秋の呼び声がこぼれてきそうな、この赤穂市に、兵庫県水産試験場が竣工をしきに急ぐ施設がある。――それは内海漁業振興対策の一つとして、浅海開発に一役を担おうとする「海苔人工採苗場」いうなれば海苔の苗代なのだから。ところで海苔人工採苗とは、いつたいどういうことなのだろう。種つけ期を控えて海苔生産にどのような影響を与えるものだろうか、されば漫坊もペンをカツいで事の真相をウカがわんとする次第だ。

(漫坊)

十一月をこえたばかりの朝であつて漫坊思はず頭を掻いた。  
「今日は海苔についてお聞きしたいですけど」

「ハハア、赤穂のですな」

「もうできるんでしよう？ 施設は」

「一生懸命にネ、やつてるんですがね。なんせコンクリート水槽のアク抜きに暇がかりましてねえ。うっかり種を入れて死なせては、何をしたことやらわかりませぬからね」

「なるほど、アク抜きがありますな」  
「生活環境には敏感ですものね、人間と一緒にですよ。悪い海水のなか

く声をかける。挨拶に先手をとられ  
「やアどうですネ」  
顔を出したとたん浜口さんが気軽

ではすぐに病気になるかなんかして、良質のものにはなりませんから」

「海苔の人工採苗は新しい仕事ですわね」

「最近ですよ。とにかく海苔の生活史が知りたいはつきりしたのが数年前ですから」

「それはどういふことですか？」

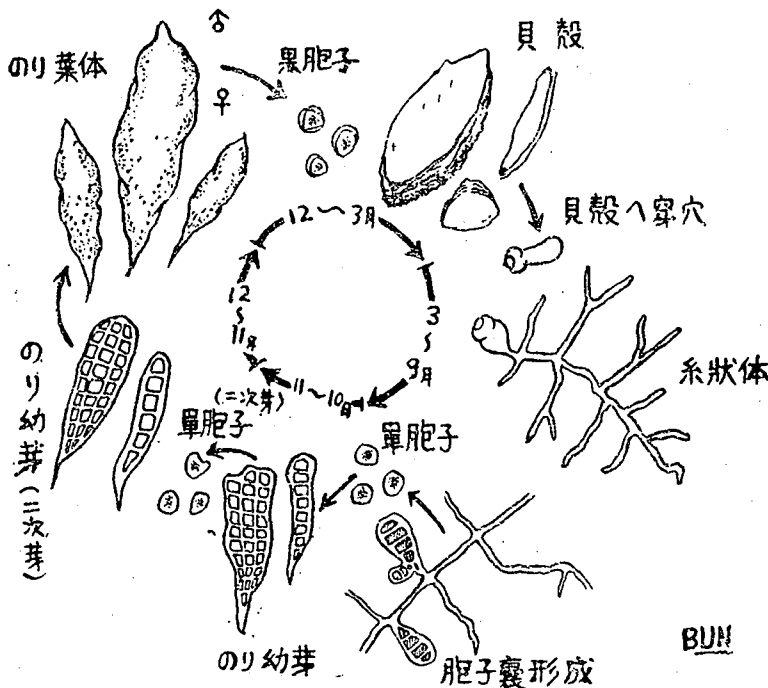
浜口さんは立ち上つて、書棚のところへ行くと、一冊の写真ブックを抜き出し、ゆつくり机の上に置きながら、海苔の種つけについて話しをすすめるのだつた。

× × ×

——海苔のタネを取るためには、海苔の発生から消滅までを、よく見きわめねばならない。

一般に海苔は、秋になると海中の木や石にタネ(胞子)が附着し発芽する。冬の間は盛んに成長して大きな葉片になり、春には、葉片の近くに精子と卵子ができて、卵子は受精して、果胞子という種子(タネ)になつて葉片から離れ、それから葉片は枯死してしまうのだが、葉片から離れたタネが、その後、秋の時期までどこでどうして暮しているだろうか?、ということはい前はナゾであ

### のり生活史



つた。この間、水産講習所花田博士の夏ノリ説、東大国枝博士の夏ノリ否定説の対立があり、一片の話題にことかかぬ。それはとにかくこのナゾの打開は、日本ならぬイギリスで行われたのは皮肉である。八年前マシエスター大学の生物学者ドリル女史が、貝殻の中に海苔の夏越しの姿を見出したのである。

すなわち、果胞子の大部分は、夏の間は糸状体となつて、石灰質の主

に貝殻に穴を開け、その中に潜んでいたのだから、わかり難かつたのも当り前である。しかし海苔の糸状体が、貝殻にどういふ具合に穴を開けて入りこむかということは、まだ未解決な問題なのだ。

× × ×

をタネつけ期までうまく管理し、秋口になつてビヨコビヨコ出てくるタネを網ヒビなどにつけ、海中にこれを立てこんでおけばドツサリと海苔ができてくるという寸法である。「これが糸状体です

「赤穂の人工採苗施設は、屋内在が二十八坪、屋外が十七坪でして、糸状体を培養する池は内外を併せて十坪です。毎年十二月から三月まで、カキ殻の入つた培養池に成熟したアサクサノリを適当に入れて胞子(タネ)つけをしましてね、引続き三月から九月まで、カキ殻についた糸状体を管理しながら育てます。」前川さんが手真似をしながら要領を話してくれる。

「十月から十一月になりますと採苗池にとりつけてある水車のようになつた回転式の採苗機に、網を巻きつけて、これにタネをつけ、養殖する人達に配布します。」

「ところで今年はどうですか？」

「春から糸状体の培養をしているんで、施設の出来次第、今年の試験ができるようには準備をしているんですがね」

「しかし、うまく成功するまではまだまだいろいろと試験をしてみないといけないんでしようね」

「それですワ。施設ができて、すぐ大成功というように思つて、あまりに期待が大きすぎると、こちらが

一生懸命になつてゐるのは「なんじやア、試験場は」テナ調子でやられちややりきれませんね」

これは淡水養魚のベテラン柴田技師の言葉である。どうやら柴田さんには、こんな体験があつたらしいと見たのは漫坊のヒガ目か、いずれにせよ、温かい気持でもつて、この人工採苗の希望ある前途を見守つて貰いたいのである。

## 対馬暖流(二)

う き ね 鳥

### ○海に生きる者の意志

若い頃瀬戸内を航行するたびに元暦寿永のむかしをとぶらひ、平家の末路に傷心の涙を流したものである。自分も今は故郷を追はれて西海に落ちゆく平家に似てはいないか、ふとそんな気がした。しかし決して自分は敗残者でもなく又異端者でもない。これが本筋を歩むものゝ姿である筈だと思ひなほした。波しぶきにぬれて、七日の航程を私は又しても自分のあり方について反芻することに費した。

かつて私が師事した或人は「人類の意志」といふ事を云つた「トルス

トイの流れを汲む人道主義の立場から、人類共通の理想と幸福を探索しようとする考へ方のうちに「人類の意志」があり、この意志が原動力となつて思想と行動推進してゆく」と説いたのである、われわれの胸奥には「海に生きるものゝ意志」といふものが存在すると私は信じた。ここでこの解明を試みるよりも手取り早くこの意志によつて行動した人々のあることを示したい。古くは大西洋の煙波を越えてグランドバンクにたらを釣りに行つた人たち、近くは北海の波浪をしのいで活躍し、千島の日本領有をロシアに認めさせた郷土

の先輩高田屋嘉兵衛翁などが代表的なものである。いづれも眇たる帆船を驥して霧と酷寒と怒濤の魔の海に挑戦したのである。

およそ海に生きる人々は皆この意志をもつてゐるにちがいない。唯自ら意識せず各自の心の底に眠つてゐるだけのことである。これを強く意識し更にこれを実践に移さねば居れぬところから、われわれの新しい生へうまれ出ようとする苦しみと欲びとがはじまるのである。その仕事があるか、私自身に關する限り二義的なものであり、むしろ問ふところでないとも云つてもよい。若し仮に私が資金にめぐまれて数千万円の定置網をやつて一億円の水揚をしたとしても、幻滅の悲哀は加はるばかりであろう。ましてそれが零細漁民大衆の運命と何のつながりがあるろう。むしろ小さな仕事であればこそ、多少の意義があるといへる。

### ○新漁場

芦ヶ浦へ寄つてみると、関原さんはからだを損ねているようで、青ざめた顔付で迎へてくれた。宿舍設備船団の世話など、この人の並々ならぬ心労の程が察せられてまことに相

済まぬといふ気がした。

小網到着後十日余りで網入れは終つた。碇は木製のものに七、八貫の石をつけた。この網は壺網ともいうもので上部に天井張りをつけて端口以外すきまのない構造にした。春の落網をやるまで臨時にやることになつたものだ。この時から「つぼあみ」といふのが屋号のようになり、後にたこつぼを取寄せたときは皆珍しがつて見に来て、

「これがほんとのつぼあみですか」と奇問を發した人もある。初めて袋網を上げてみるときは不安と期待で胸がドキドキするくらいのものである。

アホリイカ五百匁のもの二、ハギ百匁のもの五、スズキ五百匁のもの一といふのが初漁の獲物で多くはないが、この生きた魚が自分の作つた網に入る経路を想像するだけでもたのしみである。初めての海に自分の独創になる網といふ所に捨てがたい気分がある。しかし現実のきつなにつながれた我々は忽ちこの法悦境から引きもどされて、漁獲は少い、この網は失敗ではないのか、と一瞬間いかけが頭をかすめるのである。その後五貫のアラ、三貫五百のトウヘイアナゴなど変り種もまじつて、多少好転はしたが、大した漁もなかつた。活魚船に渡すもの以外は

陸上で魚行商人に年中同じ値で売るので、イサギ三百円、アイ二百五十円など夏も冬も変りない。多い時は活魚船に安い値で売ることもある。

### ○ 猪の子たよき

本土にも「ゐのこ」といふ日があるが対馬では一寸面白い行事があるこの日子どもたちは藁で作った棒を携へて一軒々々巡回し、門口でこの棒に力をこめて地面をたゞき古めかしい文句を合唱する。この叩く音が近づいてくると家々では祝儀を包んで待つている。子どもらはあとでこれを等分にわけける。子達にはたのしいお祭である。昔対馬に猪が人間を圧倒するくらいふえたので島の南端から北端へと追ひつめてぜんめつしたと伝えられるが、猪の子叩きは、いのしゝ退治と関連がありそうだが詳しいことは聞いておらぬ。

こんな日には近所からわれもわれもと甘いものなど持つて来てくれるので三人ではもてあます位である。ごまをつぶしたあんを、あわもちにまぶしたものと田舎風味満点で、なかなか乙なものである。しかしここえ来て一番こまつたのは野菜の乏しいことである。土地の人は体質がちがうのか野菜など何ヶ月口にしなくても平気のように、百姓も作らない。魚以外副食にするようなものは

店にも売つて居なかつた。その後電灯がついたせいでもあるまいが、店にもいろいろ出るようになったが、その頃これだからだが損はねばよいがと心配になつた。果して私自身のその後の不健康、かねて病氣をもつていた柳子の悪化など、この食生活からかなりの打撃をうけたことが後に思い知られた。

### ○ 長蛇を逸す

この網の成績はあまり芳しくないままに半月ほどたつた。部落や漁協の人たちは私自身よりもあせり出した。

「思つたほど漁がない、あれだけ湾内に湧いているハマチの群もはいらぬ、これは場所がわるいのだ、場所を変へてみたらどうか」

と盛にすゝめるので私もその気になり高島の東端の外海に近い所へ入れ換へることにした。この仕事に四日かゝり漸く網を入れたものの、まだ二三日せぬと碇も十分固着せず袋網も張れない。ところが数日前、K氏経営のキビナ地曳網から一つの相談をうけていた。それはキビナを集魚灯で集めて地曳網で曳く、そのため発電機を購入して私のモーター船につけて共同事業としてこれをやろうといふ話である。つまり私の貧しい電気知識を高く買つたわけだ。それで発電機購入に厳原へ行つてもら

いたいと注文なのである。とにかく網の入替がすんだら行こうと云つておいたが、人々は漁期がせまつたので私の網入れを待ちかねていて、もう一日網をなほすまで待つてくれと云つても聞き入れないし、私もどうせ大した漁もないのだからと、不完全な網をそのままに厳原行きをすることになつた。

厳原から帰つて、風が強かつたが気がかりなので漁場へ行つてみると網全体が真白く光つている。二百五十匁から三百匁くらいのハマチが三寸目の網地にすきまもないほど刺して居り、各ブイは深く沈下していた。折りも折北西の風が十メートル以上も吹いて居り波が高くて手のつけようがない。喜ぶべきか、悲しむべきか、わけのわからぬ気分ですむを得ず引返した。

翌日行つて先づ袋を上げると、案にたがはずよれよれにもつれて居り二つだけが僅かに開いた隙間があつたのか、袋の底に五十貫程それでも生きたハマチが居た。

刺魚はもう三日位たつらしく、腐つて外れたのか網の周囲に浮いて流れていた。無慮三百貫と推定される刺魚は売物にならぬばかりか、この魚の脂で染料油が抜けて網が所々されとなり後の使用に差支へる結果となつた。私たちは唯手を拱いて歎息

するより外なかつた。こうして網の仕込資金を一挙に回収できるような魚群が訪れたのに運拙くして、むなししく長蛇を逸したのである。

その後ハマチは三十貫位の漁が二三回あつただけで、大群は再び寄せず、一月に入ると水温も降り漁獲は急に落ちて期待した寒ブリも三貫以上のものはたまに一尾づつはいるくらいのもので、売上が皆無といふ日もつづくようになつた。

年末に郁子が完二をつれてやつてきた。小綱校に助教として就職できそうなので呼んだのである。漸く学年末になつて辞令が出この子の僅かな給料も、それから三年間の苦しい家計に非常な助けとなつた。のみならず、見栄と虚飾をきらうこの子は耐乏生活に甘んじ多忙な職務の余暇には、コールドールにまみれて網縫ひに専念してくれた。たとへ三日でも、このような協力を得たならば、二十年の養育に払つた大きな労苦が十分に酬いられたと喜ぶのが親心といふものだろう。

### ○ 小型 大敷網

いよいよ待望の春の網を入れる時が迫り資材の入手にも一と苦勞したが漸く出来上り、地元延縄業者の期待のうちに四月初に敷設された。

初日は小イカ五百、次の日から千余りで十余隻の延縄の餌料を賄うに



は不十分であり他の魚も少かつたので満足できるものではなかつたが、このイカでタイ何十貫かがとれると思へば別のたのしみもある。しかし私の苦勞は思はぬ形で降りかゝつた。大潮になると碇が引けて網成りがくづれ、次第に碇の数をふやして三十余りとなつたが、それでも潮流に勝てぬことが時々おこつてくる。

この多数の碇を二十ひろ近い所でやり替へるのは重労働であるが、そう苦にならなかつた。或日碇を起す時力を入れたはずみに腰の筋がいたみ出し、時間がたつにつれて寝返り一つできぬ状態で文字通り倒れてしまつた。一ヶ月もたつて漸くなほつた頃又ぞろ碇おこし、腰痛再発というのをくり返した。この網は人にやらせても、うまい形にならぬのでどうしても無理する。

私の亡父はせんきと称して、持病の腰痛が起きると、寝たきりで天井からひもをぶら下げて、これにすがつて寝返りをやつていた。私は母の神經過敏不眠症などと共に父のせんきをも完全にうけついでようである。これも迷惑ながら親の遺産ならあまんにして苦しんでゆこう。しかしかんじんの漁獲はどうものびない。僅か三キロ離れた佐世保沖の大洋漁業のブリ大敷は東洋一の漁獲をほこつて居り、北鮮系統の三貫目以上

の大ブリが何千本と毎日のようにとれている。そのブリが先づここを通過しているのになぜ数本でもとれないのか。ここでかねて気がかりであつた海の澄明度といふことが魚の廻遊に決定的な条件であることを思ひ知らねばならなかつた。端口水深十二ひろなら、普通の海なら結構ぶりが入る深さである。しかし対馬暖流の真唯中と殆んど交らぬこの沿岸では十二ひろは淡路の海の二ひろ三ひろの状態ではなからう。

### ○水清ければ

昔渤海へ手ぐりを曳きに行つた時の事がゆくりなくも思ひ出される。もともと黄色くににごつた海であるが、この日船尾に赤い濁りがきは立つてはつきりと筋を引いているのに気付き測鉛を入れてみると十五尺しかない。船の吃水は十三尺であるから二尺の差しかない、こんな浅い堆があるのに驚き天測をやつてみると天津の白河の河口から二十哩南東に當つていた。初夏の濛氣で陸は見えずが夜仮泊すると大沽の灯台の光がかすかに望見された。こんな浅い海で、たい、ぐちを主とし、さわら、さばなども多量に網に入つた。深さよりも暗さといふことを重く見ねば

ならぬといふことを今にいたつて痛感したのである。

「水清ければ魚棲まず」こんなことばが、魚の多い対馬でも浅海に關する限りあてはまるようだ。イカでもそうだが殊にブリをとろうとすれば、水深を現在の二倍の所へ移す必要がある。そうするとこの網は現在の十倍の資金を必要とする。とてもわれわれの手のとゞくものではない。ところが、いづれも土地の長老で人格者といはれたS氏とT氏は私の網の不成績をわがことのように心配し、鮮魚運搬業者からまとまつた資金を出させるから、せめて延縄業者に十分の餌を供給しブリも大洋の百分の一でもとれる網に拡張してはどうかといふ好意ある申入れがあつた。運搬業者としても漁場と経営者が信頼できるなら協力を惜しまぬといふのは、その漁獲物を買受けようとするからである。私としても渡りに舟といふわけで食指大にうごいた。しかし妻は意外に強くこれに反対した。来対この方の生活の不自由、今の網の不振などに気をくさらせて、ともすれば望郷の調べをかなでようとする今私が明かす希望を語ろうとしても、そんなうまいことを考へて来てみてもこの有様ぢやないかと次第に冷却しつゝある。随つてこの拡張案に対して、

「もし失敗したらそんな多額の負債をどうして払うか」といふように失敗を前提として物を云ふのだから話にならぬ。こう云はれてみると漁場にたいする確信も少く内にはがむしやりに押す勇氣もないのでもともと事業の規模などあまり意に介せぬ私はこの計画をあつさり引つこめようと思つた。心の片隅に蟠居していた『定置網で成功』への野心と夢とは、多少のみれんを残しながら一応さめたようである。昔から男の積極進取性に冷たい抵抗を示した女の消極保守性は、功罪相半ばしていると云ひたいが、男性の身勝手からかどうも後者を指摘したくなる。男性の成功と失敗と両方に女性がブレーキをかけてきたことは確かだが私のこの場合果していづれであつたらうか。前記両氏は

「自分の娘を身売りさせてまで資金をつくり、これで立ち直つた某氏のごとき例もあるのに」と云つて不心得？を責めた。

「所詮私は事業家といふものになりに切れぬのだ。しかしこれが自分の本領でもあろう」と割切ろうとする傍らから、「水清ければ」といふことばが自分にもあてはまるような気がしてきて、一種寂漠の感を打ち消すことができなかつた。

# 漁船の ディーゼル化へ……

とびうお//6//  
(ST-95型)  
6馬力

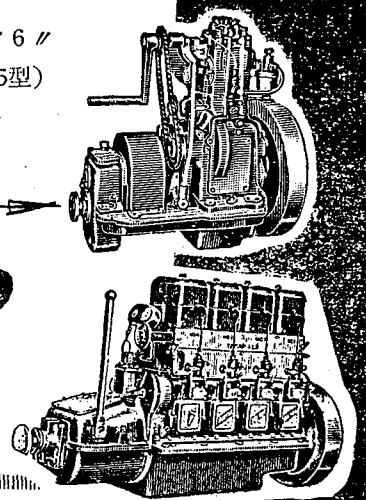
# ヤンマーディーゼル

船舶主機用 4~250馬力まで各種 4LD型  
性能・経済性・耐久力を誇る  
ヤンマーディーゼルエンジン!



本社 大阪市北区茶屋町六二  
支店 東京・福岡・札幌  
出張所 金澤・岡山・旭川・別府

カタログ贈呈本紙名記入の事



通産大臣賞受賞



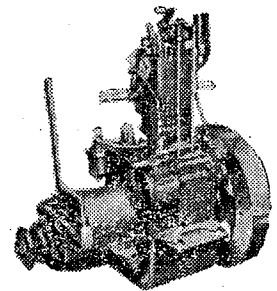
日本工業規格合格

軽くて、強くて、使いやすい。

# 三菱ダイヤディーゼル

4—60馬力迄各種

兵庫県代理店 神戸市兵庫区東柳原 山陽ダイヤ商会 TEL⑤1125  
城崎郡香住町皆松 香住鉄工(株) TEL香住16



10VC-1A  
4馬力

## 三菱 新三菱重工業株式会社

# いつも漁場に1番乗り

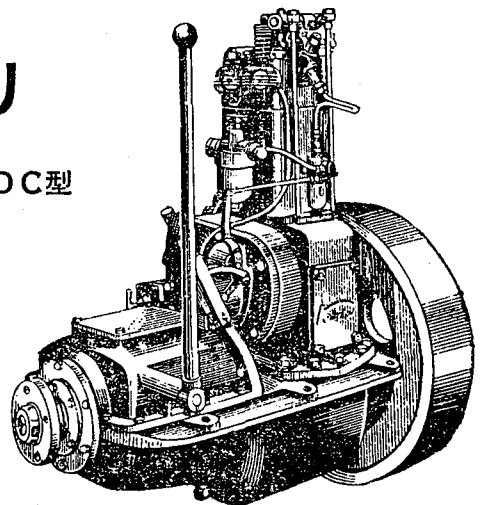
日本で唯一の直接噴射式MDC型

# クボタ 船用 ディーゼル



久保田鉄工株式会社

大阪市浪速区船出町2丁目  
東京・福岡・札幌・旭川・熊本



発行所 神戸市兵庫区新在家町 123 兵庫県立水産会館内 兵庫県漁業協同組合連合会  
発行人 三浦清太郎